

# ドイツの傑作機関銃 MG42

高速かつ広範囲に弾を発射する機関銃は本来の銃が持つ“一発必中”というコンセプトを真っ向から否定するものだ。だが一秒に15~20発もの弾がこちらに向かって放たれば、そのほとんどが当たらないと分かっているにもかかわらず、一歩踏み出すのも困難になる。ドイツ軍は使う場面を選ばない“汎用機関銃”MG34を第二次大戦でデビューさせ、1942年には決定版というべき新型機関銃、MG42が登場する。

Report by KEN NOZAWA

図版解説／鈴木健太郎  
Photo／U.S.ARMY, Bundesarchiv, Imperial War Museum,  
The Swedish Museum, WPP Archive  
Illustration／M. Kelly

## 時代が求めた最強機能 連続発射が持つ攻撃力

人類史を振り返ると、戦闘・戦争の在り方を根本的に覆してきた発明は少なくない。中でも火器は、群対群での争いに大いに活用されてきた。過去に何度も触れているように、火器とは個々人の体力や腕力に関係なく対等に戦える条件の寄与であり、つまりは、戦争の長期化と大量被害を生み出す元にもなっている。

さて。

これも過去に何度も触れているが、火器の最大の利点は遠距離からの攻撃が可能なことである。だからこそ体力や腕力

には左右されない、もしくはされ難い戦いが可能になったわけだ。そのため誕生から一貫して「より遠くから」を目標に火器は発展してきた。それは言ってしまうと「縦方向」での進歩である。ここでさらに火器の歴史に目を向けると、「より遠くから」が一定のところまで辿り着くと、別の優位性を求め、成長を遂げたことが分かる。それは「連射性能」という方向での強化であった。

再確認するまでもないが、過去の戦闘・戦争では兵士数で勝る群が基本的に勝利を収めてきた。稀に少数の群が多数の群を負かすこともあったが、それは特別な場合であるとされている。日本の歴史を

見ても、豊臣秀吉は自軍の兵士数が敵軍よりも多くなるまで戦は起こさなかった史実がある。常に、より多くの兵士を確保した後、開戦に踏み切った。

時代を問わず、同時代の異国群（軍）の兵器力には大差はなく、そのため、刀、槍、弓を主兵器とした2つの群が戦うときは、兵士数の大きい群が勝つであろうことは素人でも想像できる。無論、兵士たち個人の体力、腕力、技量の豊富さは差を生むものの、群対群においては大同小異でしかない。平均的に見れば体力も腕力も似たり寄ったりとなる。つまりは、戦闘・戦争においては、単純に兵士数が多いほど有利となる。



# MG42

ソ連軍はMG42の性能の高さにいち早く着目し、第二次大戦中にはMG42を鹵獲した自軍兵士のための取り扱いマニュアルまで発行していた。数多くのイラストが添付されたこのマニュアルは読み書きが十分にできない者でも理解しやすい構成となっているが、それは結局のところMG42がイラストだけで構造と機能が伝わってしまうほど合理的な設計だったということでもある。戦局を立て直すために作られたMG42は戦局が進むにつれて少ない数がソ連軍の手に渡り、戦争の最終局面ではまるで支給品のような割合でMG42を持ったソ連軍兵士がいた。

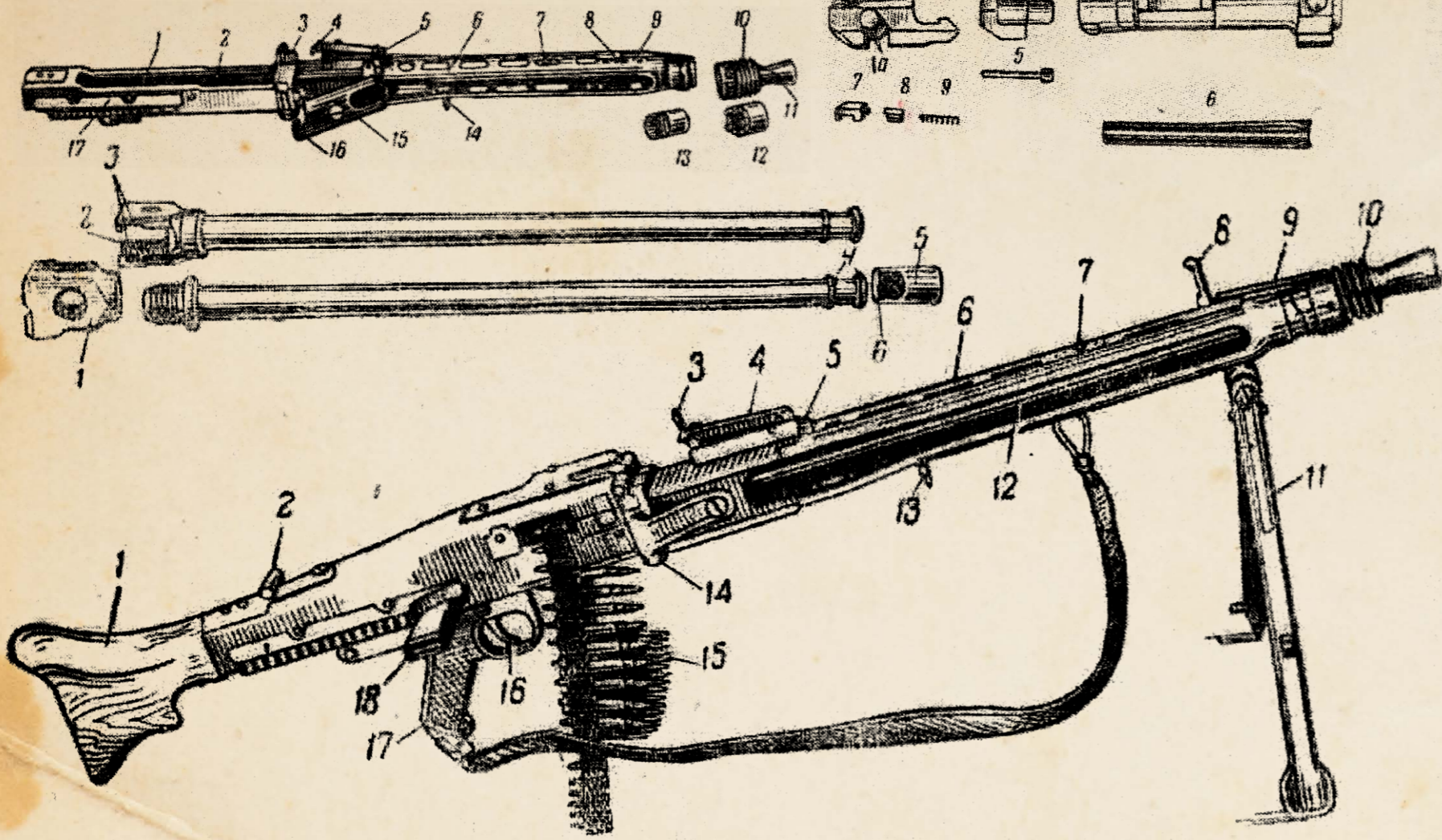
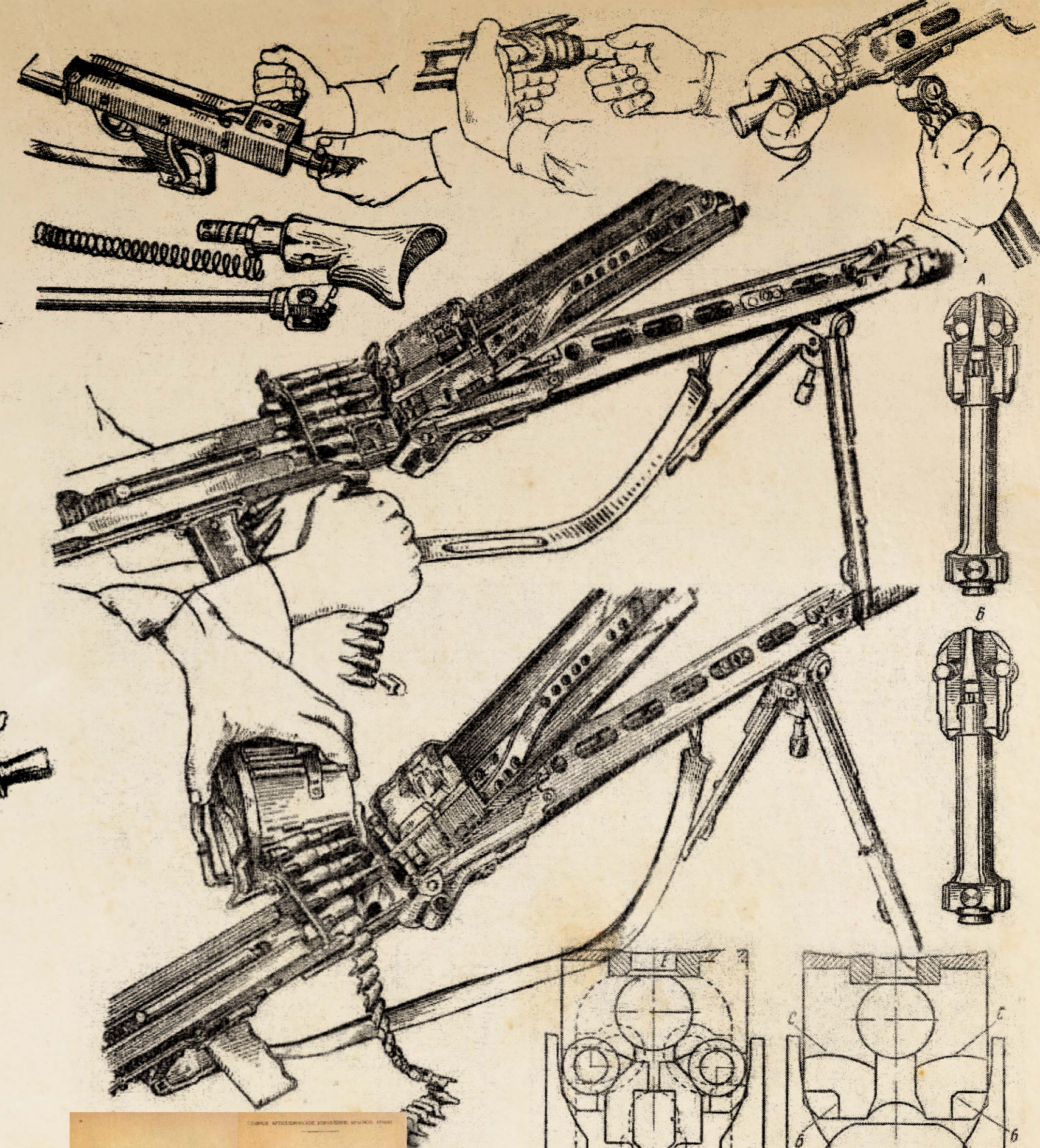


Рис. 1. Общий вид германского 7,92-мм пулемёта обр. 1942 г. MG-42:

1 — приклад; 2 — защелка крышки короба; 3 — грибок прицела; 4 — прицельная планка; 5 — задний визир для азимутной стрельбы (в сложившем виде); 6 — ствольная коробка (кожух); 7 — гнездо для переднего визира азимутного прицела; 8 — мушка; 9 — защелка надульника; 10 — надульник; 11 — болты; 12 — ствол; 13 — бороздка для крепления пулемета на станке; 14 — защелка дверцы; 15 — дрифта с прорезями; 16 — спусковой крючок; 17 — пистолетная рукоятка; 18 — рукоятка заряжания



ОБЩИЕ СВЕДЕНИЯ  
Пулемёт MG-42 (рис. 1) работает на принципе отдачи с коротким ходом ствола.  
Заряжание автомата ствола осуществляется болтами, упираясь (долзаями), расположенными в ствол.  
Ударный механизм — ударно-скользящий.  
Основное применение пулемёта — ведение непрерывного огня. Предельная дальность стрельбы — 2000 м.  
Пулемёт MG-42, как и пулемёт MG-34, имеет складывающийся ствол, оборудованный в сборе для стрельбы в упорном положении. Он предназначен для уничтожения стрелков, пулемётчиков и танков с расстояния до 800 м. Из пулемёта могут вести огонь кораблями и другими средствами.  
Патроны заряжаются в металлическую ленту по 25 патронов для MG-42 (обыкновенно 50 патронов) и 25 патронов для MG-34.  
Полосный механизм пулемёта типа, с выталкивателем ленты, выталкивает патроны.  
Патрон выталкивается при движении затвора вперёд и назад, выходя из паза ленты.  
Применяется с массой до 2000 кг.

ОПИСАНИЕ  
ГЕРМАНСКОГО  
7,92-мм ПУЛЕМЕТА  
обр. 1942 г.  
MG-42

(右と右奥) ソ連軍のマニュアルに描かれたローラーロック機構のアップ。上部が薬室、下部がボルトで、ボルトには二個のローラーがあり、薬室にはローラーが通る溝が設けられている。溝は前に行くにつれて外に広がるように掘られており、ボルトがリターン springs の力で溝に入り込んだローラーを外に押し出して閉鎖が完了する。この機構から派生した、ローラーと溝によってボルトの後退を遅延させるローラーディレイド機構がのちのG3やMP5に取り入れられていくことになる。



CAR-15を手に、周囲を警戒しながら歩を進めるSEAL隊員。顔と手にカムフラージュベントを施して視覚的に目立たなくするだけでなく、CAR-15のスリングスイベルを取り外すなど音を立てないための工夫も凝らされている。この写真は明らかに訓練時あるいはプロモーション用に撮影されたもので、CAR-15は実銃ではなく日本製のブロッガンである。1985年4月 アメリカ本土

# プロジェクトデルタ 偵察マニュアル Part 9

## 移動に関する各種技法と注意点

文/鈴木健太郎 写真/U.S. ARMY, U.S. NAVY, USMC, WPPアーカイブ



陸軍情報学校におけるFTX (Field Training Exercise=実働訓練)で、川べりを進む特殊部隊員たち。ここではピストルベルトや水筒など最低限の装備品しか見当たらないが、長距離偵察では総重量が40キロを超える装備と弾薬、サバイバル用品などを身に付けて行動しなければならない。



フォート・ベニングで行なわれた戦技競技会で、地図を見ながら進路を割り出す偵察チームのリーダー。頭のカムフラージュネットとバラップが周囲に溶け込むのに非常に高い効果を挙げているのが分かる。手首には小型のコンパスが付けられているが、偵察隊員はたいてい官給品や民間用など複数のコンパスを身に付けている。2015年5月

敵地に展開した偵察チームの移動に関する技法は基本的に5種類あり、チームが敵に発見される、あるいは包囲されるのを未然に防ぐのに役立つ。それぞれの技法の詳細を以下に示す。

**a “箱” 技法**  
この技法はシンプルかつ効果的で、訓練の必要もほとんどない。偵察チームがある方向に一定の距離を進んだ場合、仮に35メートルであれば35メートル進んだら90度方向転換してさらに75メートル進み、ふたたび90度方向転換して今度は30メートル進むという作業を3回繰り返すと偵察チームの進路が“箱”のようになる。この時点で偵察チームには敵に追跡されているのであれば待ち伏せをかける、植生の乱れなどの痕跡が目立つようならそれを消すために来た道を戻る、あるいは歩みを進めるといったいくつかの選択肢がもたらされる。“箱”を作ったあとにふたたび進み出したら、50~70メートルほど移動してからもう一つの“箱”を作っていく。“箱”技法は追跡してくる敵に対して待ち伏せをかけたり、こちらの進路を認識させて敵を混乱に陥れるのに大きな効果があり、もし時折ブービートラップをしかける機会があれば追跡を完全に諦めさせ、敵に進路を知られることのないままチームが危険な地域を脱出することも可能になる。この技法を用いる際は“箱”の大きさが同じになったり、曲がる方向が偏らないように注意しなければならない。例は図Aを参照のこと。

**b “8の字” 技法**  
この技法は“箱”技法と良く似ているが、進路が直角と直線の組み合わせでなく円を描き、数字の8のようになる。例は図Bを参照のこと。

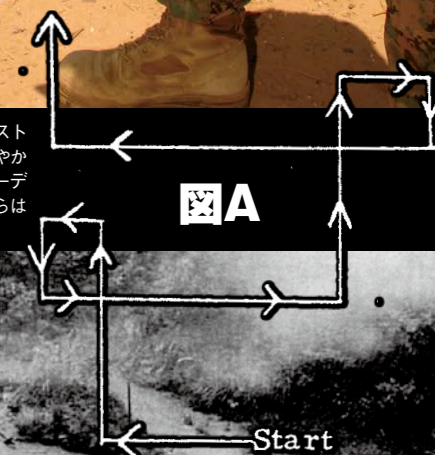
図B

Start



地図とコンパスのみを用いて目的地まで踏破する訓練で、進路を確認する海兵隊員たち。脇に立てられた赤い弾幕箱はチェックポイントを示す目印で、コースには何か所もこのようなチェックポイントが設けられている。実際の偵察任務では当然ながら目印となる地点は自らが設定しなければならず、進路を確認する際にこのような目立つ体勢になってはならない。2008年6月 アメリカ本土

沖縄のキャンプ・ハーディーで対ゲリラ戦の講習を受ける海軍兵士たち。タイガーストライプ迷彩服を着て伴走しているのはおそらく教官を務める特殊部隊員で、彼が軽やかな足取りで進む中でほとんどの兵士が体勢を崩しているのが面白い。キャンプ・ハーディーにはベトナムで偵察任務に携わった特殊部隊員が往来しており、この基地で彼らは自身の戦技を磨きながら一般部隊の兵士へのレクチャーも行っていた。





# 新旧リボルバー対決! Colt Detective vs Ruger LCR



コルト・ディテクティブ・スペシャル  
●全長:178mm ●重量:約595g  
●口径:38スペシャル ●装弾数:6発  
●価格:中古市場のみ



Ruger LCR  
●全長:170mm ●重量:約485g  
●口径:357マグナム/.38スペシャル  
●装弾数:5発 ●価格:579~859ドル

「鮫島さん、小型リボルバーってアメリカでは実際にどう使われ方をしているのですか? 日本で最近あるリボルバーモデルの再販があるので、ふと気になります」  
先日、担当編集と打ち合わせをしている際にこんなことを聞かれた。「ああ、コルト・ディテクティブですか。いいですよ。小型リボルバーは、実際、よく売れているモデルのひとつですよ。そうだ、コルト・ディテクティブのような日本でよく知られたクラシック・モデルが、アメリカで現在販売されているモダン・モデルのリボルバーと比較して通用するのか? という検証をする企画はどうですか?」「おお、面白そうじゃないですか!」というわけで、今回のテーマは小型リボルバー、クラシックVSモダン。コルト・ディテクティブvsルガーLCRをお届けしよう。

## 現代におけるリボルバーの需要

近年において、警察などの法執行機関がリボルバーを主要なハンドガンとして採用しているケースはほとんどないといっている。犯罪の少ない田舎町なら、リボルバーを携帯した警官を見る機会はあるかもしれないが、コロナ以降、各種デモ、集団万引き、ホームレスの増加、全米各地で治安が悪くなっていると言わざるを得ない。増加した犯罪に対応する為には、装弾数の限られたリボルバーでは難しい。現在、多くの警察官が携帯する銃はグロック・シリーズ、P320シリーズ等に小型ダット・サイトを搭載したオートマチックだ。そういう状況の中、リボルバーを選ぶ理由は何なのだろうか。ガンショッ

プで働いている仲間にリボルバーに関する話を聞いてみると、実際に銃を販売する現場からのリアルティが見えてくる。彼らによると、ホーム・ディフェンス用として、リボルバーは一般的に最適なハンドガンだという。「やっぱり、オートと違ってマガジンのスプリングが痛む心配がないから?」「いや、それもあんだけど操作が簡単だろ? 銃を一度も扱ったことのない客にはリボルバーを勧めることが多いんだ。まず、女性なんか弾をマガジンに装填するにも一苦労だよ。その点リボルバーはシリンダーに弾を込めてトリガーを引くだけだ」なるほど。確かに、この点は僕も余り深くは気にしていなかった。過去に銃を扱ったことのない初心者の女性に射撃を教える機会は数多かったが、確かに誰もが弾込めに苦労し

ていた。たとえば、グロックのマガジンを17発フルに装填するのは、ローダーなしでは、初心者の女性にはかなり厳しい。射撃に慣れた人であってもローダーなしとなると、親指の痛みと格闘しながら、全弾を装填することになるだろう。リボルバーにはその心配はない。シンプルな操作性と確実な作動性がリボルバーの

利点だ。アメリカで銃を買い求めるすべての人がガンマニアや射撃愛好家という訳ではない。むしろ、そういった人たちはマジョリティではない。車を必要とする人がカーマニアではないのと同じように、銃を買い求める人のほとんどは、銃を買うことで安心し、弾を装填したまま何年も放置している。実際、僕でさえ自

クラシックVSモダンということで、今回はディテクティブとLCRを用意した。ディテクティブとLCR、どちらもサイズ的には非常に近い。重量はポリマー素材を使用するLCRの方が軽量だが、どちらも携帯性に優れた小型リボルバーだ。1950年代に生産された工業製品を現在生産されている製品と比較してみようという企画だ。



# EXPENDABLES GUN BLACK Ver.

**WESTERN ARMS**

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY  
 西ウエスタン アームズ 03-3407-5922  
 http://www.wa-gunnet.co.jp



**エクスペンダブルズ ガンブラックVer.**  
 ●全長:約220mm ●銃身長:約114mm  
 ●重量:約915g ●装弾数:21+1発  
 ●価格:4万9,500円 ●絶賛発売中!!



スライド右側にキンバー・オリジナルよりも大きな文字で刻まれたスクリーン・プロップ・タイプのモデル名。フレームに刻まれたシリアル・ナンバー、キンバーの所在地など、刻印はすべて彫刻機で深くシャープに再現されている。

## ハリウッドのオールスター・アクションを象徴する キンバーM1911ゴールド・コンバットII スクリーン・カスタム

2010年に肉派アクション・スターの雄、シルヴェスター・スタローンが、共同脚本、監督、主演を務めてミリオン・ヒットを放ったアクション・ムービー『エクスペンダブルズ』。ハリウッドの人気アクション・スター総出演という快挙もファンを狂喜乱舞させた。

2年後の2012年に『エクスペンダブルズ2』、さらに2014年に『エクスペンダブルズ3 ワールドミッション』が公開され、豪華なキャスティングと共に、鍛え抜かれた筋肉と大量の火薬が炸裂する迫力のアクションが、往年のファンはいうまでもなく、コンピューター&スマホ世代のゲーム・マニアまでも大いに興奮させた。2019年には、シリーズ最新作の『エクスペンダブルズ4 ニューブラッド』が、撮影をスタートしていたが、世界的な新型コロナの蔓延で公開予定不明となり、アクション・ムービー・ファンはその動向に注目していた。

そんな最新作『エクスペンダブルズ4 ニューブラッド』が、2024年1

月に満を持して公開される(予定)。後2ヵ月と少し、アクション・ムービー・ファンは、首を長くして待つことだろう。

多彩なファイアー・アームスが登場するスクリーンで、ファンがもっとも注目したのは、主演のシルヴェスター・スタローン(バーニー・ロス)が愛用する近代的にカスタム・アップしたSAAと、キンバーのM1911カスタムだろう。ノスタルジックなりボルバーと近代型タクティカル系セミオートを手に、バーニーが見せる王道のガン・アクションも、ファンの注目を集めた。

SAA(モデルガン)やM1911のモデルアップに長年こだわってきたウエスタンアームズ(以下、WA)では、『エクスペンダブルズ』の公開直後に、キンバーM1911カスタム「ゴールド・コンバットII」をベースに、スクリーン・プロップのイメージに合わせた、エクスペンダブルズ・カスタムを製作。再現が難しいスクリーン・プロップを、

正確にモデルアップするWAの技術と情報収集力がファンを驚かせた。正確な外観と、クオリティの高いフィニッシュで登場したWAのエクスペンダブルズ・モデルは、その後何度かの仕様変更を経て、現在も人気モデルのひとつになっている。

今月は『エクスペンダブルズ4 ニューブラッド』の公開に先駆けて、ガンブラック仕様のエクスペンダブルズ・カスタムが再登場。最新作の公開まで、このカスタム・ガンを手に、シリーズ3作品をもう一度チェックしておこう。

スクリーンのイメージを彷彿とさせる“エクスペンダブルズ ガンブラックVer.”の本体は、重量と硬高質感に定評のあるCBHW製。スライド上面の反射防止用グリーブ、フレームとの境目に施されたフレンチ・カット、そしてタクティカルレッジ・



スムーズ・タイプのブラック・グリップにトレードマークを再現した金属製のメダリオン。マガジンはマットシルバーのマコーミック・タイプを標準装着する。

タイプのリア・サイトなどの特徴が、高度な機械加工で再現されている。スライド前後のコッキング・セレクションも、スクリーンのイメージに合わせて、キンバー・モデルより、ピッチを少し狭くするという凝りようだ。スライド・フレームの刻印類は、

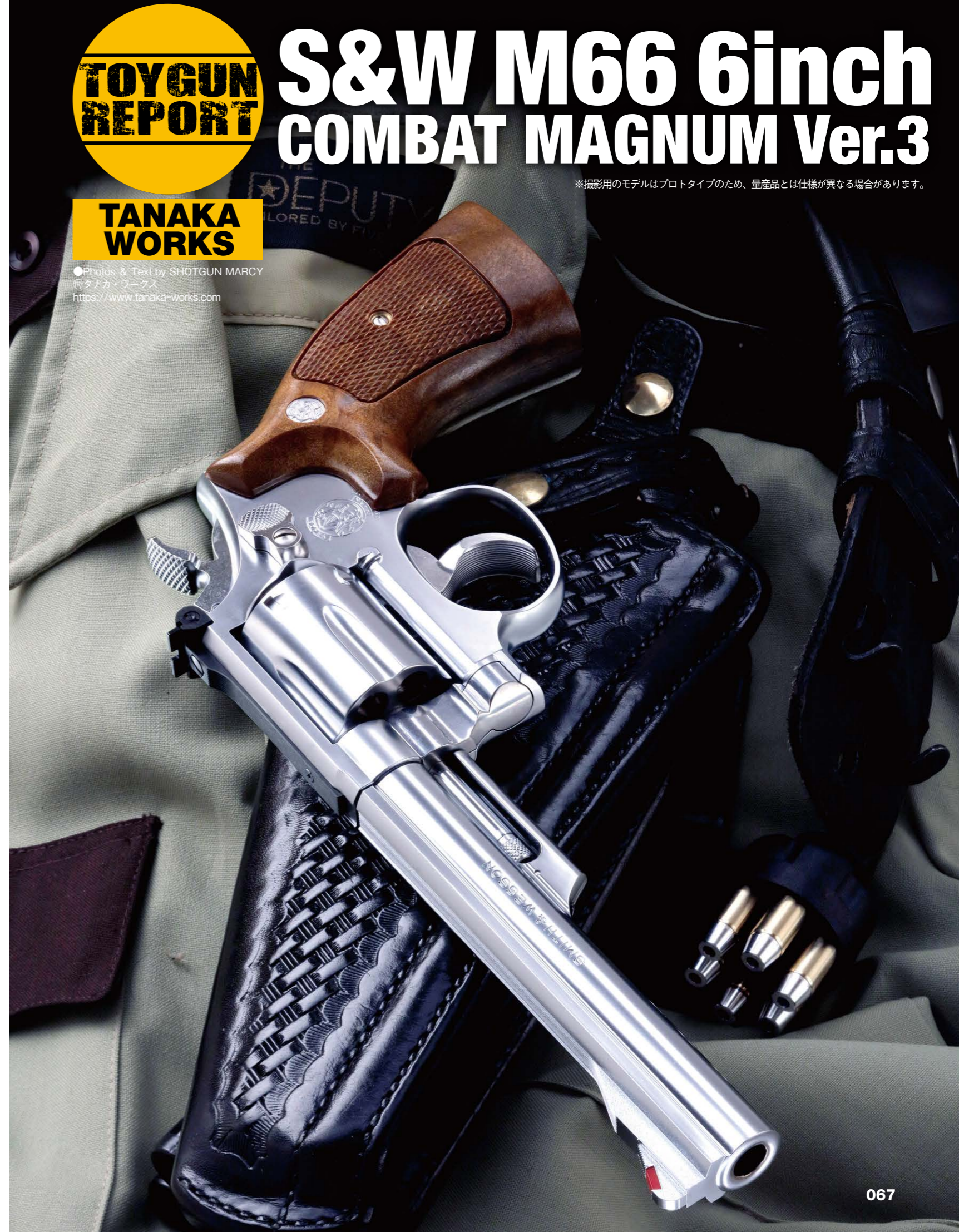
**TOYGUN  
REPORT**

# S&W M66 6inch COMBAT MAGNUM Ver.3

※撮影用のモデルはプロトタイプのため、量産品とは仕様異なる場合があります。

**TANAKA  
WORKS**

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY  
@tanaka-works  
<https://www.tanaka-works.com>





# Militaria Roundup!

## B-17Bフライトジャケット&CWU-1/Pフライトスーツ

女性の社会進出が目覚ましい昨今。各国軍では多くの女性がさまざまな軍務に就いている。女性兵士には独自のユニフォームが制定されているが、その中にはフライトジャケットも存在する。今回はアメリカ空軍の女性用B-17Bジャケットを中心にアメリカ軍航空における女性の存在と、男性用CWU-1Pカバーオールを紹介しよう。

解説/菊月俊之 写真/青木健格、油科康司 撮影協力/中田商店 ☎03-3823-8577 <https://www.nakatashoten.com/>

### 女性と飛行機

女性と軍隊との関わりは案外と古く、女性が軍で大きな役割を果たすようになったのは第2次大戦中だった。アメリカ軍では軍用機の空輸を任務とする女性飛行隊“WASP”が編成されたほか、負傷兵の空輸任務に従事するフライト・ナースが誕生している。

女性と飛行機との関係も意外と古く、世界最初の飛行士はフランスのレイモンド・デ・ラ・ロッシュ男爵夫人で1910年に女性初の航空免許を取得している。またベシカ・ライヘが同じ年にアメリカ最初の女性飛行士となった。そして20年代後半から30年代には多くの女性パイロットが登場し、数々の記録を樹立したほか、女性航空レースも開催されている。それら女性パイロットの中でとくに有名なのがアメリカ・イアハート（1897生まれ。1937年に飛行中に失踪し、39年に死亡認定）と、ジャクリン・コ克蘭（1905～80年）だった。

### 女性空軍軍務パイロット“WASP”

#### WOMEN AIRFORCE SERVICE PILOT

WASP（女性空軍軍務パイロット）は不第2次大戦中の1943年に組織された組織で、陸軍航空隊の航空輸送司令部（Air Transport Command/ATC）に所属し、軍用機の空輸と、空輸任務に従事する女性パイロットの訓練を任務とした。

女性パイロットを軍用機の空輸に従事させる案は前出のジャクリン・コ克蘭の発案で、1939年に大統領夫人のエレノア・ルーズベルトに進言している。しかし軍はこの案に消極的で、コ克蘭はイギリス空軍空輸補助部隊のため女性パイロットを募集してイギリスへ送った。その間に陸軍航空隊は“WAFS”（女性補助空輸飛行隊）を組織し、工場から軍飛行場までの空輸に従事させていた。これを知ったコ克蘭は航空隊司令官ヘンリー・アーノルド大將と協議し、女性パイロットの訓練を任務とする“WFTD”（女性飛行訓練分遣隊）を組織する。

こうして女性パイロットによる2つの組織が併存することになったが、コ克蘭は組織の単一化を主張した。その結果、1943年8月に2つの組織は統合されてWASPとなり、44年12月に解散するまで空輸任務に従事。その活動はアメリカ国内およびカナダに限定されている。WASPのメンバーは18～35歳で、民間において最低35時間の飛行時間を有すること、そして身体面でのテストに合格することが求められた。メンバーはあくまで民間人で軍籍に編入はされなかったが、1977年に成立した法案により退役軍人としての地位が与えられている。



#### WASP章 WASP BADGE

WASP章は1943年に制定され、最初のもは広げた翼の中央にクラス番号が刻まれた紋章を配し、その上に航空隊訓練司令官の飛行隊番号が入ったスクロールが付くデザインだった。44年以降は中央の紋章が菱形に変更されている。菱形は女性の伝統的な紋章とされ、戦いと知恵の女神アテナが持つ盾の形に由来するという。

A-2ジャケットを着用したWASPの女性パイロット。あきらかにジャケットがオーバーサイズなのが見て取れる。男性用の飛行服はサイズ等で不具合が多く、1943年から女性用飛行服が採用されるようになった。胸の部隊章は航空輸送司令部（ATC）のもの。（Photo：U.S.A.F.）



ジャクリン・コ克蘭（1905～80） Jacqueline Cochran  
女流パイロットとして数々のスピード記録を樹立、大陸横断協議会優勝のキャリアを持ち、1953年には女性初の超音速飛行を達成している。第2次大戦では女性パイロットの軍務への参加を推進し、43年に設立されたWASPの司令官に就任している。（Photo：National Archives）



4人のWASPパイロット。左から2人目がB-6ジャケットを着用し、残る3人がWASP部隊章（ディズニー・スタジオのデザイン）のついたA-2を着用している。WASPが活動した16か月間に1074人（1072人説あり）がパイロット訓練課程に合格している。（Photo：U.S.A.F.）

### 陸軍航空隊フライト・ナース

#### U.S.A.A.F. FLIGHT NURSE

フライト・ナースは負傷兵を飛行機で後送する際に同乗して看護を行なう女性兵士で、第2次大戦中に誕生している。大戦前は負傷兵を飛行機で後送することは考慮されていなかったが、戦争が世界規模になったことでその必要性が生じるようになった。アメリカ参戦の翌1942年にアラスカ、ビルマ、ニューギニアの航空部隊が輸送機による負傷兵後送で成果を収め、陸軍航空隊はケンタッキー州ボウエン飛行場に訓練施設を開設。航空軍医（Flight Surgeon）、フライト・ナース、下士官の医療技術者の訓練を実施した。

フライト・ナースとなるには陸軍の将校で看護婦資格を有すること（つまり陸軍看護婦）、そしてエアクルーとしての資格を持つことが必要。その後、航空医療の教育課程を修了してフライト・ナースとなった。フライト・ナース最初のクラスが卒業するのは1943年2月となったが、前年11月の連合軍による北アフリカ進行作戦を受け、卒業前のフライト・ナース数名が戦地に派遣されている。

負傷兵の後送は航空隊の輸送空路を使用。負傷兵を空輸したのは通常の輸送機で、軍需品輸送の帰路に負傷者を空輸した。このため機体に赤十字を描くことはできず、敵の攻撃を受ける危険があった。このためフライト・ナースの搭乗は志願制が取られ、志願者は万一の墜落に備えたサバイバル訓練を受けている。そして約500人のフライト・ナースが31個避難輸送飛行隊（Evacuation Transport Squadron）に所属した。第2次大戦中に陸軍航空隊は117万6048人の負傷兵を空輸したが、そのうち死亡者は46人だった。これはフライト・ナースによる功績が大きい、17人が殉職している。

第2次大戦で活躍したフライト・ナースは1947年に陸軍から独立した空軍にも受け継がれ、陸軍航空隊から移籍したフライト・ナースによって49年に誕生。現在も負傷兵の空輸任務に従事している。

### 女性用フライング・スーツ

WASPおよびフライト・ナースが創設された当時、女性用の飛行服は存在しておらず、フライトジャケットとフライトスーツは陸軍航空隊の男性用がそのまま使用された。しかしサイズやフィッティングに問題があり、各種飛行服が開発されている。

1943年6月にブルーのウール製F-1フライング・ジャケット、A-1エヴィエーション・スラックス、A-1エヴィエーション・スカートが採用され、WASPとフライト・ナースの飛行服として着用された。また44年初めにカバーオールの冬期用A-1スーツが採用されたが、次で紹介するB-17フライトジャケットが採用されたことで順次交代している。



#### フライト・ナース章（ウイング）

フライト・ナース章は1943年12月制定。幅は約5cmで、パイロット章の約7.6cmより小さい。デザインは医療のシンボルのカドケウスとナースの頭文字“N”に翼を組み合わせたもので、44年に色が金から銀になった。フライト・ナース章を最初に授章したのは第1期優秀卒業生のジェラルディン・ディッシュルン少尉。1956年には中央の紋章を変更したデザインのものが空軍フライト・ナース章として採用されている。

戦場からの負傷兵空輸の訓練を行なうフライト・ナース。彼女たちのユニフォームはF-1ジャケット、A-1スラックス、そしてC-1キャップで、ブルーのシャツに黒のネクタイを着用した。フライト・ナースのウール・ユニフォームは1944年に色がオリーブ・ドラブに変更されている。（Photo：U.S.A.F.）



WASPの女性パイロットが空輸したのは練習機、戦闘機、さらには4発の重爆撃機と多岐にわたった。写真はカリフォルニア州イングルウッドのノースアメリカン工場からP-51戦闘機を空輸するWASPパイロット。（Photo：U.S.A.F.）



陸軍航空隊のフライト・ナースは陸軍看護婦部隊（Army Nurse Corps/ANC）のメンバーで、第2次大戦中に約500人が訓練を受けて負傷兵の空輸に従事した。（Photo：U.S.A.F.）



次世代MP5に  
固定ストック付きの本格派  
「A4」が登場!

次世代電動ガン  
TOKYO MARUI H&K  
MP5A4

300g級ウェイトが強いエンジンでパワフル作動し鮮やかなリコイルショックを演出! とくにA4はガッチリした固定ストックがそれを余すところなく身体に伝えてくる!



- MTD (マレイタクティカルドットサイト) 21,780円
- 次世代電動ガンMP5シリーズ専用/マウントベース 3,828円
- プロサイレンサー (ショートタイプ) 4,180円
- 次世代電動ガンMP5シリーズ専用/72連 (ノーマル) マガジン 3,828円
- 次世代電動ガンMP5シリーズ専用/200連射マガジン 4,378円
- 次世代電動ガンMP5シリーズ専用/ダブルマガジンクリップ 1,408円
- クイックアジャスト・ツープointスリング/ブラック 3,850円

## “アーバン・スナイパー(都市型狙撃手)” を覚醒させるフィクスト・ストックの安定感。

東京マルイ純正「MS・Li-Poバッテリー」を主軸に多角的な電子制御を可能とした「高性能FET」および「M-SYSTEM」の開発・搭載により、ハイレベルな安全性、抜群にキレのよいトリガーレスポンス、確実な3バーストを実現!  
さらに「1990年代の実銃」の質感・

重量感・操作感を、「実物から成分分析して作ったナイロン系樹脂」や「実銃の風合いをもっとも忠実に再現可能な粉体焼付塗装仕上げ」等を駆使し最大限リアルに再現したチャレンジによってマニアックなファンをも痺れさせた次世代電動ガンMP5シリーズに、フィクスト(固定)スト

ックを備えたMP5A4が新登場!  
筆者が初めて実銃のMP5(セミオートカービンHK94)を撃った1989年、100yds(=約91m)先に吊るされた12インチ(=約30cm)径スティールプレートにビーブサイト照準で面白いように連続HITできたその高精度・安定感。

「MP5ってSMG(短機関銃)というより、都市に対応したピンポイント狙撃銃なんだ!」と実感したものだ。

次世代MP5A4の固定ストックが与えてくれる「ソリッド感=頼もしさ」は、筆者のその記憶を鮮やかに蘇らせてくれた。

またA5やSD6のスライドストックは左右2点だけでレシーバーと接していたものが、A4の固定ストックではより大きな接触面積でガッシリ繋がっている所以か、リコイルショックの体感がより大きく激しい!とも感じられたのだが……。

是非、読者諸兄にもその真相をお確かめ頂きたい。





月刊

# THE GREEN BERET SPECIAL FORCES CIF COMPANIES



vol.55

Part 3

文・イラスト/DJちゅう  
写真/U.S.ARMY

## 特殊部隊CIF中隊特集パート3

米陸軍特殊部隊グリーンベレーに存在する対テロ (CT) やダイレクトアクション (DA) に特化した中隊CIF。CIF→CRF→HTD→CTACと名称を変更してきた背景は前回で紹介しました。現在ではCTACと呼ばれる彼らですが、ではなぜグリーンベレーの中にそんな部隊を作る必要があったのでしょうか。1952年に陸軍特殊部隊と

して産声を上げたグリーンベレー。もともとは不正規戦 (UW)、パートナー部隊や現地でゲリラ部隊を訓練し、指揮するのがグリーンベレーの主な任務でした。ベトナム戦争を経て、世界ではテロリストによる脅威が高まる1970~80年代に突入します。そんな中、米軍では常設の対テロ部隊を作ろうという動きがあり、とある二人の

将校が、それぞれのやり方で対テロ部隊を創設します。それが「デルタフォース」と「ブルーライト」。デルタフォースはご存知の方も多いでしょう。ここで登場するもう一方の対テロ部隊「ブルーライト」こそが後のCIFへと繋がっていくのです。今回はCIF誕生のきっかけとなったブルーライトに注目してご紹介していきます。

### 参考文献

AMERICAN SPECIAL OPS [Special Forces CIF Companies], jackmurphywrites.com [SPECIAL FORCES TO DISBAND THE COMMANDERS-IN EXTREMIS-FORCE (CIF)], THE WARZONE [The Army Is Training Specialized Companies Of Green Berets To Crack "Hard Targets"] [Green Berets Hone Their Destruction Of Enemy Air Defenses Skills For A Peer Conflict], HIGHSIDE [Revenge on the CIF - How "The Haters" Cut Special Forces' Last Link To JSOC], SOFREP [Blue Light (Part 1 ~ 9): From the Special Forces, America's first counterterrorism unit] [This long-forgotten unit was the direct predecessor to Delta Force] [Special Forces direct-action training on Fort Bragg], Military.com [New Acting SecDef Is a Former 'Horse Soldier' Who Played Key Role in Afghanistan Invasion]





# 御前崎分屯基地 基地警備

航空自衛隊らしくないものの非常に重要な部隊——それが基地警備だ。  
迷彩服に身を包み、軽装甲機動車に乗り、小銃や拳銃で戦う。  
今回は、敵機侵入を警戒するレーダーサイトを守るため、泥にまみれて戦う男たちをクローズアップ!

航空自衛隊の職種の中に「警備」がある。空自ホームページによると「来訪者の受付をはじめとして、基地を警備し、施設・物品の管理と隊員の安全を守る」と書かれている。警備員は、全国の航空基地やレーダーサイト等に配置されている。基本的に基地業務を担当する部隊に内包されている。

空自と言えば、大空を縦横無尽に飛行する戦闘機やそれを駆るパイロットをイメージする方が多いことだろう。こうした戦闘機を含む各種航空機を運用する「飛行(パイロット)」そしてメンテナンスを行なう「航空機整備」といった職種は、老若男女説明がなくともどんな仕事か理解するのは難しくないだろう。一方で、警

備は、小銃や拳銃を手にし、地べたを這いつくばるという空自のイメージとは大きく異なるものだ。しかしながら、決して欠かすことが出来ないとても重要な仕事なのである。たとえば領空・領土を守るべく、戦闘機を飛ばし続けるためには、滑走路や補給のための施設が必要不可欠だ。そこで、有事の際、敵は真っ先



軽装甲機動車の前で警戒態勢をとる御前崎基地警備隊員たち。航空自衛隊の各基地や分屯基地、施設等を守るため、「警備」という職種がある。